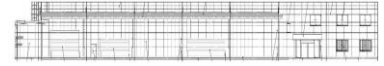


CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用評価2019年版、名古屋中規模建築物環境性能評価マニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三浦電気株式会社 名古屋守山営業所 新築工事	階数	地上2F
建設地	愛知県名古屋守山区今原町1701番,1702番,1703番,1703番2,1703番3,1703番4,1704番1,1704番2,1704番3,1704番4	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	29 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2020年12月11日
敷地面積	2,706 m ²	作成者	
建築面積	1,382 m ²	確認日	2020年12月11日
延床面積	2,449 m ²	確認者	



図と図ワリリはここは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.3 ★★★★★★☆☆☆☆

★: S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	78%
③上記+②以外の	78%
④上記+	78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

音環境	3.2
温熱環境	2.6
光・視環境	3.1
空気質環境	3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

機能性	3.3
耐用性	2.8
対応性	3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・地域外環境	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.8
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源	3.0
非再生材料の	3.5
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化	3.8
地域環境	2.4
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
十分な休憩スペースを確保し、事務所には昼光率2.12%確保するほどの開口部を設け社員の快適性に配慮した		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
床、壁に吸音材を採用することで室内環境に配慮	一人当たりの執務スペースが9m ² 以上確保	駐車場緑化を採用し、敷地内の緑化に努めた
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEImによる	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	適切な量の駐車場を確保

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

三浦電気株式会社 名古屋守山営業所 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル;
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.3	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.112461843	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.011246184	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.056230922	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.0	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.0	
2. 自然共生	評価点 = 1.3	
3. 循環型社会	評価点 = 3.3	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。